

保育者養成課程における器楽指導の在り方について

～コード伴奏から導入する効果的な学習方法～

篠 澤 友 子

Shinozawa Yuko

はじめに

保育者を目指す者にとって、器楽伴奏の技術は必須であり、器楽Ⅰ、Ⅱの授業は必修科目である。しかし、保育者を志した時点ですべての者が器楽の学習経験が十分にあるわけではない。当然の事であるが、ピアノなどの楽器を特別に習った経験はないが、高校生からその先の進路を考えた時に一つの選択肢として、保育者を希望する学生もいる。本学には、そのようなほぼ初心者と言って良い状態で入学してくる学生と、幼少時からのかかりのピアノの学習経験を積んだ学生が、混在して入学してくる。このような中での器楽の授業の導入における、コード伴奏の効果的な学習方法についてその指導のポイントと、その必要性について考察したい。

まず、前述したように入学時の学生には、それまでのピアノの学習経験に大きな差があり、その経験の少ない者と多い者とを全く同じレベルから授業をスタートさせるのは両者にとってマイナス点が多い。そのため、本学では幼児教育学科の音楽コースを除く新入生に対して入学時にピアノの経験度調査を行い各クラスを習熟度で2つのクラスに分けて、一年次の器楽授業を行っている。本学には最大28名が同時に学習できるML教室と、個人レッスン用のレッスンルームとがあり、一年次の器楽はこのML教室を使用した90分のグループレッスンで行われている。つまり、各学生の経験度に応じた28名以内での2つのレベル別クラスに分かれて、授業がそれぞれに進められていくのである。

双方のクラスでは、スタート時にはピアノの力には大きな開きがみられる。しかし、意外なことに両者共にほとんどの学生が未経験であるのが、コードによる伴奏法である。経験度の多いほうのクラスでさえ入学後の一回目の授業でコードネームがわかるのは、1 クラスに 2~3 名いるかいないか、場合によっては 1 名もいないことすらあるのが現状である。このため、本学の器楽の授業では、一年次の必修である器楽 I の早い段階で必ずコードの基礎を学び習得することを、器楽 I の指導教員全員で申し合わせて徹底している。

ここで大切なのが、コードのどこまでが幼児教育に携わっていく上で最も役に立つかという分析である。一口にコードと言っても基本となるコードネームだけでも何十もありその転回形まで含めたら膨大である。導入の段階では、すべてを理解するよりも、その中で本当に必要なものだけに絞って、繰り返し学習し、手が自然に動くまで徹底して覚えたほうが有効ではないかと考える。次に、本学で現在使用している教材を具体的な例として取り上げながら分析してみる。

現在の本学の幼児教育学科の器楽 I、II では『簡易伴奏による こどもの歌ベストテン』^{*1} 『大人のためのバイエル教本』^{*2} の二冊の楽譜と、それを補完する本学の担当教員で作った副教材集一冊の計三冊を使用し授業を進めている。各楽譜にはそれぞれ明確で異なった役割がある。『こどもの歌ベストテン』は、保育現場で実際に使用されている歌の伴奏その物を演奏しまた歌えるようにするものであり、『大人のためのバイエル教本』は、読譜力をやしない鍵盤楽器を演奏する力を伸ばし、実際の伴奏に生かせる為の基礎力を付けるとともに初めての歌も学生自身で弾くことができる力を付けていくための教材、そしてこの二冊で応じきれない部分を補完する目的で作られたのが副教材である。

この、『こどもの歌ベストテン』には、全部で 85 曲が収録されているが、この収録曲の調性を調べてみると興味深いことがわかる。結果は次の通りである。

ハ長調 41 曲、ト長調 11 曲、ニ長調 3 曲、ヘ長調 26 曲、イ短調 1 曲、ロ短調 1 曲、そしてニ短調 2 曲の全 85 曲となっている。この短調 4 曲のうち 2 曲は「残酷な天使のテーゼ」^{*3} 「めざせポケモンマスター」^{*4} のアニメソングでありもう 2 曲が「うれしいひなまつり」^{*5} 「ちいさい秋みつけた」^{*6} である。ここで、次の事が見えてくる。つまり、この 85 曲のうち生活や行事の歌として毎日弾くような頻度の高い曲は、ハ長調ト長調ニ長調ヘ長調の 4 つの長調の中にほとんどすべてが当てはまるのである。このことから、学習者がこの 4 調にしぼって学習することは、かなり効率の良いことであることがわかる。それは、どのようにこの 4 調をマスターしていけばよいのであろうか。

コードには基本形と転回形があり、基本形のみを覚えてだけでは実際の楽曲では伴奏しづらい。最低限の基本知識として I IV V₇ の和声進行にのっとった転回形までを覚える必要がある。できればスケールカデンツの形でいつも同じ指使いで覚えてしまうのが良い。たとえばハ長調なら 1 オクターブのスケールに続いてカデンツのかたちで CFG₇C をドミソ、ドファラ、シファソ、ドミソの型として覚える。さらに、簡単な童謡などで実際にコードで伴奏することにより、3 拍子への対応やアルベルティ（ドソミソとなる）などの形も体験させる。本学では、「メリーさんのひつじ」（アメリカ曲）、「かっこう」（ドイツ民謡）、「子ぎつね」（外国曲）などで移調をしながら、このハ長、ト長、ニ長、ヘ長の 4 調をしっかりと定着するまで練習するよう指導している。これは、長年ピアノを習ってきた学生にも非常に大切な導入となっている。なぜならこのことは、それぞれがそれまで長い練習時間を費やして弾いてきた曲の数々も、大半がこのようなコードで伴奏づけされた和声音楽でできていたことを改めて知る機会となり、機能と声として美しい伴奏づけをできるようになっていくことにつながる。そして、楽譜を和音=コードとしてとらえてみることは、前出の『おとなのためのバイエル教本』を学習する際にも早い段階から、各曲の左手が、伴奏としての意味を持った和音としてとらえられ、機能することにつながる近道である。

コード伴奏とは、つまり和声音楽を理解する非常に効果的な方法である上に、初心者も経験の多い者もこれを習得することで伴奏をより美しく簡単に弾くための効果的な学習方法なのである。

【註】

*¹坂東貴余子編『簡易伴奏によるこどもの歌ベストテン』〈改訂版〉ドレミ楽譜出版社、2001 年、144p

*²坂東貴余子・本間正治『おとなのためのバイエル教本』改訂 16 刷ドレミ楽譜出版社、2007 年、88p

*³及川眠子作詞佐藤英敏作曲 “残酷な天使のテーゼ”

*⁴戸田昭吾作詞たなかひろかず作曲 “めざせポケモンマスター”

*⁵サトウハチロー作詞河村光陽作曲 “うれしい ひなまつり”

*⁶サトウハチロー作詞中田喜直作曲 “ちいさい秋みつけた”